

第6回セミナーを9月10日(土) 13:30~15:30に開催しました。

会場：愛知文教大学 ABUラウンジ

テーマ：深い学びの実現を社会科から考える

講師：実践発表者 犬山市立犬山中学校 教諭 安形 直樹 先生

：コメンテーター 岐阜聖徳学園大学 教授 玉置 崇 先生

大変勉強になりました。ありがとうございました。

自分自身これまでの「教える」授業からの脱却を目指して悩みながら試行錯誤しながら授業を行っていますが、生徒の意見のつなぎ方、ふり返り方など大変参考になりました。

意見を交わすためには必要最低限となる知識の習得も大切です。学びを深める時間と知識を習得するための時間のバランスはどうすべきか悩みは尽きません。

あとテストで点がとれる生徒＝活発に意見交流ができる生徒とは限りません。テストでよい点がとれずとも自分の意見を一生懸命伝えることができる生徒もいると思います。各クラスの実態に応じて授業を変えているそうですが、そうしたことも難しいですね。

本日は誠にありがとうございました。

模擬授業や子どもたちの様子を見せていただき、子どもたちが楽しく、自ら学んでいると感じました。

課題設定も子どもたちのことを考えてされているように思いました。

今まで、「見方・考え方」について授業の中で深く考えられていなかったもので、これからは子どもに何を学ばせたいか、どうなってもらいたいかを考えた上で授業に取り組んでいきたいと思いました。ありがとうございました。

私は二つの中学校で日本語指導をやっていますが、安形先生がプレゼンで話されたとおり教科毎の部会はすごく大切だと思います。

何故なら二つの中学で対応している子どもたちの日本語の理解度、漢字、文化の違いが様々に常に授業を研究しています。もちろん、生徒だけではなく自分自身も盲点になっている所にも気づけて、それが自分の成長にもつなげられます。生徒・教師の両方が学び成長できる生活を送りたい気持ちです。本日はありがとうございました。

とても深い学びをすることができました。

犬山中の安形先生の授業では、教師がコーディネーターとしての役割を果たした素晴らしいものでした。

本当にありがとうございました。

安形先生の熱意、研究主任としての意欲的な姿勢がまず強く伝わりました。組織内にこんな人材がいれば・・・、というよりこうした人材を育てることができていればと自らの取組を振り返る機会になりました。

子どもたちの学びの様子はまさにアクティブラーニングであったと思います。ただ自分としては、もう少し子どもたちに聴く姿勢が感じられたらなおよかったと思います。

深く学ぶと人は静かになっていくといわれますが、そんな姿が見られるようになったら、もって子どもたちが育つのではないかと感じています。(安形先生自身も感じておられたと思いますが)、モノログとダイアログという言葉がありますが、モノログのやりとりではなくダ

イアログの関係が深まってくると、あの拍手は起こらなかったと思います。

貴重な機会をありがとうございました。

すごいと思ったことを以下に書きます。

- ・全教員で、授業づくりを柱として、共通理解を図っているところ。
- ・(その手段として)月(週)に一回の教科主任会の設定
- ・学び合う人間関係
子ども同士だけではなく、教員同士にも「何でも言い合える」雰囲気がある。
- ・研究主任が中心となりコーディネーターとしての教師のワザを全教員が学び共有できている。
- ・子どもが主語となる授業づくり(研究)

本日は大変深い学びをありがとうございました。

教員同士が教科別だけでなく、他教科にわたって目指すべき、子どもの姿に向かって、共有をはかっていくことの大切さを知りました。

子どもの姿を通して、実践をふり返っていけるように、今後励んでいきたいと思います。

毎授業の、ふり返りをかかせているが、いつも「～がわかりました。」 「～を知りました。」で終わっており、どうしたら、子どもたちにとって、学びが深まるふり返りになるのか悩んでいました。今回、ふり返りの意図を子どもに伝えること、どの視点でふり返るのか、この2点について学ばせてもらいました。

今後活かしていきます。大変勉強になりました。

深い学びを取り入れた授業が、定期考査の評価には上手く反映されないなど今、自分の教科で考えています。

安形先生も、女生徒の意欲的な学び合いの姿を紹介しながら、「3人は定期考査で半分取れない」とおっしゃっていました。

その学び合いの姿を、定期考査でも良い形で返せるようにするためには、定期考査のあり方を変えなきゃいけないと思うようになっていきます。

また、評価の点でも学ばせて頂きたいです。今日はありがとうございました。

私が本セミナーで感じたことは、「学校全体が同じ志を持つ大切さ」です。学校は、一人の教師で立っている訳ではない。先生方一人ひとりの「想い」が重なり、一つの大きな「志」となる時、学校全体としての教育の在り方が確立されるのだと感じました。私が教師になる時、それは、まだまだ若い新米教師です。先輩の先生方の「志」を然と学びながら、私自身もまた一人の教師として「想い」を持てるよう、これまで沢山学び考え抜いた教育への「想い」を確固たるものにこれから半年を過ごしたいと思いました。

学校という組織で働く覚悟が本セミナーでまた一段と深まったというか、覚悟が改めて決まりました。私も早くその一員になりたいと願うばかりです。

学び合う学び研究所セミナーの運営の皆様、学生という立場でこういった貴重な会に参加させて頂けますこと大変光栄です。ありがとうございました。

安形先生、先生の「想い」が光り輝き学校全体の「志」になっていることを私は感じました。私もそういった「想い」を繋げ「志」にする力をいつか身につけたいと思います。意図を明確にされた大変理解しやすいお話をありがとうございました。

玉置先生、私は何度ご講演を聞いても、先生が目を付けられる所が読みきれず、悔しいです(笑) まだまだ玉置先生の見る目を私は学び切れていないようです。今回もまたありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは「手立て(見方カード、思考ツール)」です。研究指定で終わるのではなく、それを契機に本物の学びをつくらうとする授業を、学校をつくらうとする実践は素晴らしいと思いました。

教科部会か学年部会かは、学校の実態によると感じます。どちらも大切なんですけど、どこに重点を置くかによると思います。

振り返りを読むと、生徒たちの素直さを感じます。だからこそ、見方カードや思考ツールは子供の考え方、学び方を規定してしまう怖さもあることを忘れないようにしたい。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは「教科主任会を行うこと」です。

教科部会と教科主任会を実施して、学校の思いを一つにすることはとても重要なことだと感じた。教員の若返りが目立つ学校現場では、特に若者に伝えなければならないことがたくさんあると思う。それが、教科部会であったり、学年部会であったりすることは重要な点である。しかし、時間割にそれらを組み込める学校はいいのだが、小規模校などは難しい面があるのではないだろうか？

何より、あのように若い研究主任が力を発揮しながら学校改革の一助を担うことは、今の学校現場の良き例になっているのではないだろうか。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは「教科の特性と深い学び」です。

「主体的に学ぶとは」「深い学びとは」という高い課題を投げかけていただき、大変頭を悩ませました。言葉は知っていて、具体的な姿をイメージはしていても、「うーん、難しい、どういけばいいのかわからない」が頭の中をぐるぐる回っていました。これこそが深い学びかも…。深く学んだ時というのは、明確な言葉になって言い表せないものだと実感しました。

何年前か、研究指定校に勤務をし、学び合いの理念の元、研究を推進しようとしたのですが中学校における教科の壁に阻まれ、なかなか共通理解が図れなかったことを思い出しました。教科の特質は大切にしつつも学校として一つの柱を共有し、それに沿った授業作りにこだわりをもって進めていってほしいとのこと。前回の岩倉南部中学校と同じようにすばらしい取り組みを紹介していただきました。ありがとうございます。小規模校に勤務する私は、教科部会もままならず、教材研究も独断です。フランクに語り合える場をもってほしいことは羨ましいかぎりです。(若いころは教科部会が時間割に組み込まれていて、お菓子を食べてながらたわいもない話をしていたなあ。どうしてあんな余裕があったのでしょうか???)

玉置先生のお話の中の「見方・考え方とは」という問いかけですが、大学で学習指導要領についての授業をしていると学生からよく質問されることです。なかなか明確に答えをもっていませんでしたから、かなりストンと落ちました。犬山中学校さんでは、各教科における見方・考え方や学び方を、かなり明確にして生徒たちに示されています。だから、あんなにもふり返りで自分の学びを見つめられる生徒が育っているのだと学びました。

私自身は、教科の学びを超えた、生きていくうえでの学び方、それが「わからないことをわからないという」「疑問やわからなさを大切に」「わからなさに寄り添う」なのではないか

と考えています。「主体的対話的で深い学び」とともに「個別最適な学び」がクローズアップされている昨今、だれ一人残さずすべての子の学びを保障したいと切に望みます。「おちこぼれず授業についていく」というだけでは、主体的に学んでいるとは考えにくく、苦しい子も自分のわからなさとしてことんつきあう、そんな学び方を身に付けてほしいと願っています。この研修に参加すると、毎回自分が目指していることを思い起こせます。ありがとうございます。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは「『深い学び』につながる鍵は、「今日の授業で一生覚えておくといいコト」」です。

安形先生、玉置先生ありがとうございました。犬山中学校の子どもの姿がすべてを物語っていました。「社会科がおもしろい」とからだいっぱい表現する子ども、女の子たちがあれほどうれしそうに対話しているようす、授業が終わってから仲間と議論し、学び続ける子どもの温度・・・、自分はなかなかできずに困っていますが、少し光が見えたような気がしています。

校長先生のすてきな理念やビジョンを、安形先生が先手を打って具現化し、仲間の先生方と協同し、あれほどすてきな子どもを育てている事実、「どのようにして育てたのか？」のからくりや秘密まで伝えていただきました。

犬山中学校の子どもは先生方と学び合う学びに出会い、こころやからだ解放され、学びを体感し、ととても幸せだろうなあと思いました。また、犬山中学校の先生方は玉置先生に出会って、ととても幸せなんだろうなあと思いました。

今日は玉置先生のお話やコーディネートについても学ぼうと思っていました。小牧の先生方の中にも同じ思いの方がいらっしゃいました。頭の中にこの映像が残っているうちに、少しでも子どもや先生方に還元する工夫ができたと思います。これからもいっぱい学ばせてください。ありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは「教育の価値を子どもに伝えること。」です。

犬山中の実践が具体的に伝わってきて、よい刺激になりました。研究の理念がシンプルにまとめられており、その記録がいただけたこともありがたかったです。

そして玉置崇先生のさすがの司会進行、切り返し、深掘りによって学びが深まりました。最後の30分間のミニ講演もあり、大満足です。

また、これまでにお世話になった先生方と何人もお会いできたことも嬉しかったです。初めて参加でしたが、よい経験となりました。楽しい企画をありがとうございました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは「『このようにしたいと思うのですが、意見を言ってください』という時に、大概は意見を言わずにその通り進めてくださいと流れていることが多いのではないのでしょうか。そうではなく、意見を言っても大丈夫と心的安全性が保たれていることが大切だと犬山中学校の研究をきいて学んだこと」です。

まず研究構想図の大切さを気づかせていただきました。研究構想図は学校教育目標のグランドデザインに相当するものであると思いました。そして、各教科の研究構想図もあり横に見ることで育成していく資質・能力が見やすくなっていくと思いました。

安形先生の授業での振り返りの内容と量を見て驚きました。ビデオのように自分の考えを持って説明し他の人が違う考えを持っていることを聴いて楽しいと思える授業を実践してい

ないと十分に書くことができないと思いました。

授業では課題の質を高め教員が余計な説明を削り落とすことが肝要であることは研修で幾多も指摘されています。しかしそれだけでは足りず、良い学び方を小学校1年時より身につけさせていく指導、計画的に定期的に思い出すように指導しながら意識させていく必要がある視点については抜けていると思いました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは「見方カードと思考ツール」です。

犬山中学校の取り組みの中で、「新しい学校文化の形成」という言葉に感銘を受けました。とりわけ、深い学びに向けて、見方カードや思考ツールなど具体的な手立てを考えられているところが素晴らしいと思いました。授業後の生徒の熱心な討論はその表れだと思います。

振り返り文が素晴らしいだけに、評価の位置づけも変わってくるのではないかと感じました。つまり、定期テストで評価する以上にこの振り返り文での評価の比重が高くなるのではと思いました。

毎週の教科主任会が研究のエンジンを担っているようですが、自分の経験では、教科の枠を超えて生徒をよく見るためには学年部会が有効と思っていましたので、新鮮でした。

議論を深めるためには、実際の犬山中の生徒や授業の様子をもっと知りたく、もう少し長く授業ビデオを見せていただければと思いました。

玉置先生の見方・考え方の捉え方は分かりやすく、さすがです。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは「すべての生徒の学びを保証するために、深い学びの実現を目指す犬山中学校の取り組みについて学べたこと」です。

犬山中学校の取り組み、社会科での実践、玉置先生のお話と、大変勉強になりました。あっという間の2時間でした。ありがとうございました。すべての生徒の学びを保証するための、主体的で深い学びを実現するために、学校全体で研究をすすめている犬山中学校の取り組みは、とても素晴らしいなと率直に思いました。社会科の実践も大変参考になりました。特に、見方、考え方を重視した取り組みは、自分は何となくでしか取り組めていないので、勉強になりました。自分の授業創りを再度見直していきたいです。

犬山中学校の実践を通して、生徒が主体的に、また創造的に授業に取り組む工夫を学ばせていただきました。深い学びの実現のために、単元計画をしっかりと練ること、振り返りを大切にすることが重要だと思いました。また、生徒の活動時間を増やすことが指導をしないこととは違うことを改めて確認しました。生徒が学ぶために指導することを忘れてはいけないと思いました。

また、教員間でしっかりと意思疎通がされていることもすごいと思いました。同じ方向を向いて研究に取り組むことにより、生徒はどの授業でも同じスタンスで学ぶことができ、力がついていくのだと思います。教員同士の話し合い、振り返りも大切なのだと思いました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは「どんな児童生徒を育てていくのか、様々な視点を持ち、精査し、実践していくこと」です。

振り返りが遅くなりすみません。現在勤務している小学校が犬山中学校への進学先となります。中学校が育てたい生徒を見据えて、小学校での現職教育につなげていきたい。それが小中連携につながっていくと感じました。

今日のセミナーで学習した中で重要だと思ったことは『見直しに対する振り返り』など具体的なポイントを与えて振り返りを行わせること。』です。

見直しに対する振り返りを通じて、生徒が「次はこういう視点で考えてみたい」と考えている点は素晴らしいと思ったが、班の中には、中学校2年生なら活動の前の段階でそこまでできているべき、という意見もあった。

何人かの武将の中で誰が一番優れているか、という切り口は他校の授業実践でも見たことがあるが、武将の色々な業績や特性を調べ比較対照させるのによい切り口だと思う。他の単元、教材、他教科ではどういった切り口があるか、開発して共有していけるとよい。

これだけ授業研究に力を入れている学校でも、職員間に意識や取り組みの差はあるようだ。個々が授業改善に努めることは当然だが、学校としての取り組みにするには反対などがかなり出そうだ。

自己評価、相互評価、聞き合う姿勢などは、指導しなければ身につかない、ということだった。従来はこういうことが授業等の中で自然と身につくことを期待して進めていたが、まず指導して身につけさせることで活動の質を上げたい。

生徒は振り返りを常日頃から行っており、惰性になってしまうので、そうならないような指導も必要だということだったので気をつけたい。